

灰の水曜日

第1朗読 ヨエル 2・12-18

第2朗読 ニコリント 5・20～6・2

福音朗読 マタイ 6・1-6、16-18

2025.3.5 19:30 ミサ

カトリック高円寺教会

主任司祭 高木健次神父

今日から四旬節が始まります。この中で特に一人ひとりが、また共同体として、それぞれの信仰の歩みを顧みて、また新たに歩んでいこうという気持ちを奮い起こしつつ、神様の恵みを求めるように呼びかけられているのだと思います。

わたしたちの信仰の歩みは、決して神様にどうすれば愛していただけるかということを求めるものではありません。神様が愛してくださるということは前提です。しかし、わたしたちの側^{がわ}がむしろそのわたしたちを愛してくださる神様の愛により深く気づき出会うと同時に、わたしたちの側^{がわ}がどうやったら神様を愛せるのかということを追いかけるというのが信仰生活の課題であると言えるのではないかと思います。

どうしたら神様に愛していただけるかではなくて、それはもう前提として、どうしたらその神様の愛をわたしたちが気付く、そして受け取ることができるのか、そして神様のほうをわたしたちがどうしたら愛することができるのかということです。

神様を愛するということは、イエス様が何度も、それは他の人^たに心を開く、他の人を愛することなんだと教えてくださいます。ですから、わたしたちは神様を愛する、つまり他の人^{ほか}を愛そうとするときに、神様を愛することができるし、そうすることを通してより深く神様の愛に触れることができる、気付くことができるし、また神様の愛にそれだけ気付けば、触れるならば、他の人^たを愛することができる、もっとできるようになっていくっていう、その相互の循環の中で導かれていくということなんだと思います。

そういう意味では「もうこれで良い」ということはいないわけです。神様の愛はわたしたちが汲み尽くすことができないし、そしてその愛に応えることは完全にはできないわけですので——でも絶えず一歩一歩歩んで行く——だから「こ

のままが良いのだ」ということは決して信仰生活の中には馴染まない、そういう言葉です。

しかし、何かに追い立てられたりとか、そうでなければ神様が愛してくださらないんだってというような恐怖とか脅迫観念に駆られて信仰生活をする必要はない。自分のペースで神様と出会いながら、でも一步一步進んで行くということが大切なのではないかと思います。

四旬節にあたって、教皇様はいつもメッセージを出してくださいますが、[今年](#)の[四旬節の教皇メッセージ](#)のテーマは「希望をもってともに歩んでいきましょう」というものでした。このメッセージは3つの要素から成り立っています。「希望をもつ」、「ともにある」、「歩む」ということなんですけれども、その真ん中に来ている「ともに」ということそのものが、わたしたちの教会の一番の課題であるわけです。出会う人々を本当に受け入れる——具体的な行動を通して、です。

教皇様はこのように書いていらっしゃいます。

「主のみ前で自らに問うてみましょう。身近な人に対しても遠くの人に対しても具体的な振る舞いを持って受け入れる態度を示しているだろうか」。

わたしたちは御言葉を聞き、そしてミサに参加したりするたびに気持ちを新たに、人を受け入れていこうという気持ちになる。でも時として、そういう気持ちになったとしても、それから最初に出会う人がわたしたちの期待しているような人と期待しているような形で出会わないという、もっと難しい出会いであったりするので出鼻をくじかれてしまうということはあるかもしれません。でもまた一方で、そう思わない、思わず、期待しないような何かの出来事を通して、あまた新たにその気持ちが前向きにされるというか勇気づけられるということもあるでしょう。

わたしたちが絶えず一直線に成長するのではなくて、でも神様の導きの中で行ったり来たりしながらだんだんに変えられていく。それがもう一つの「希望をもって」ということになるわけです。この「希望」というのは漠然とした、「こうなったらいいなあ」と思うのではなくて、神様ご自身がわたしたちを罪から解放してくださるのだという、そういう希望です。神様ご自身がわたしたちを変えてくださるのだという希望です。その希望をもって絶えず祈っているのか、ということ振り返るように教皇様は勧められます。

そして、じゃあ神様が変えてくださるのを待っているだけではなくて、わたしたちの側も今度は「歩む」必要があるんです。

教皇様の文章を朗読いたします。

「わたしたちは道を進んでいるでしょうか。それとも恐れや絶望から硬直して動けなくなっていたり、楽な場所から抜け出せなくなっていないでしょうか」。

いろんな理由で自分が変えられていくということを諦めたり拒絶したりって、そういうようなこともあるわけです。でもそれは信仰生活とは馴染まない心のあり方ですので、時にそういうことがあったとしても、恵みに信頼してまた歩き出すことができるんだ。何に向かってか。それは、他の人とともにある者になっていくっていうことに向かって、です。他の人とともに、そして神とともにです。それは神様の恵みによって、でもわたしたちがそれに応えようとするということを通して少しずつ——戻ったり進んだりしながら、でも少しずつ——わたしたちは歩むのだという思いを新たにしたいと思います。

今日これから灰の式を行いますけれども、この式を通して一人ひとりがもう一回新たな気持ちになりたいって、その希望を表して神様の恵みを願います。この典礼の中で表現されるその希望が一人ひとりの生き方と、そして共同体のあり方の中に実現しますように、恵みを願いながら、このごミサをお捧げいたしましょう。

参照：

2025年四旬節教皇メッセージ「希望をもってともに歩んでいきましょう」

<https://www.cbcj.catholic.jp/2025/02/28/31569/>

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>